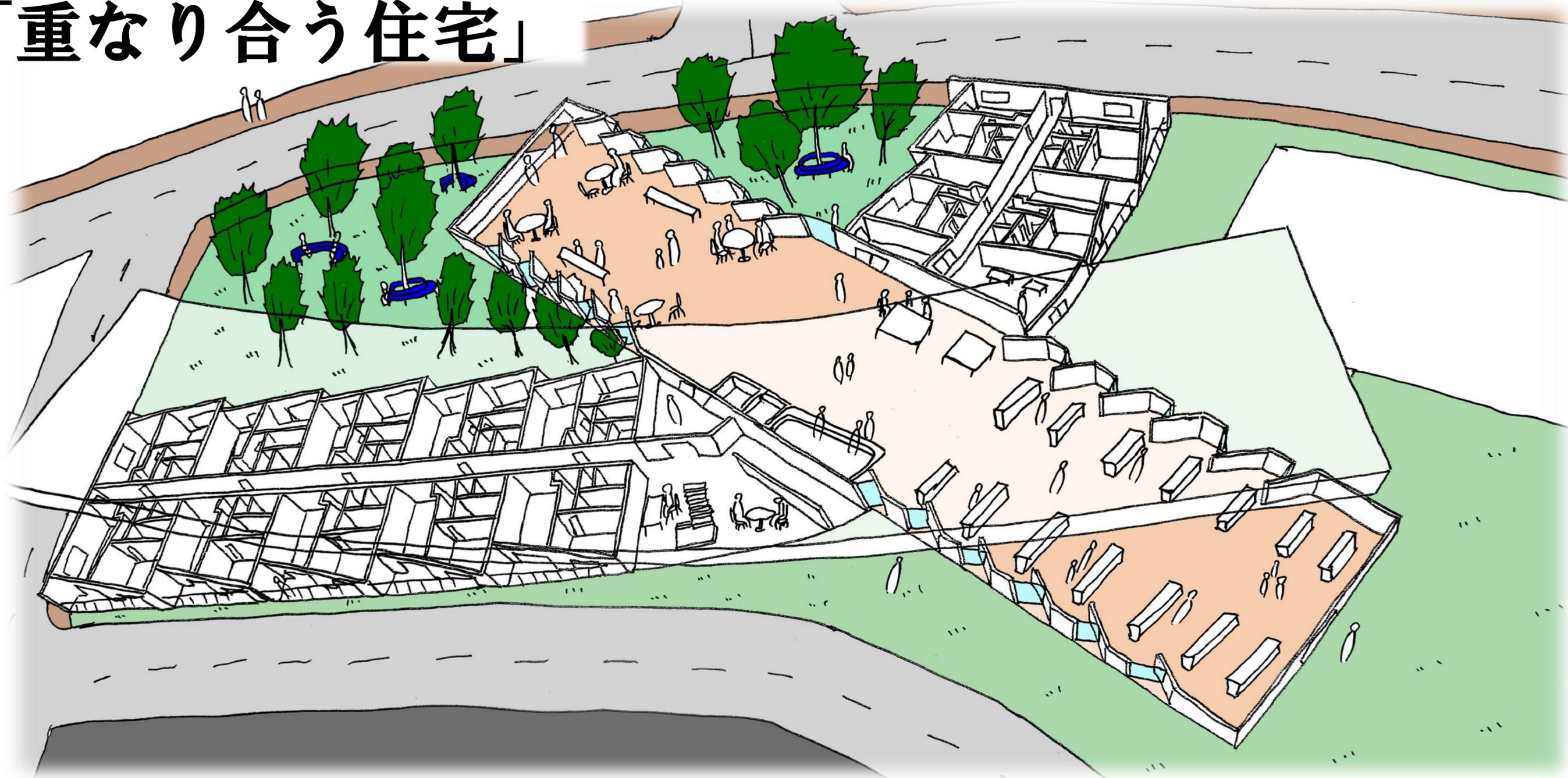
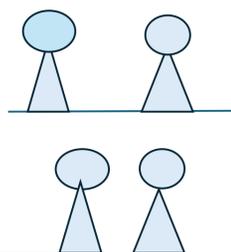


# 「重なり合う住宅」



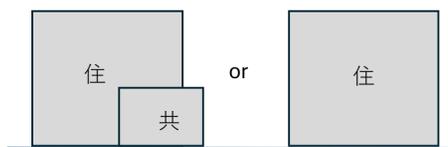
## 背景



緊急時以外は接するレベルが低い

日常会話しやすく接するレベルが高い

〈従来の集合住宅〉



共用スペースと住居スペースがはっきりと分離されている。

共用スペースがない。

## コンセプト

重なり合う3つの棟のうち、中心にまちなか commons を配置することで、集合住宅の住民にはまちなか commons が身近なものになる。まちなか commons では多くの人々が集まる場所になるため、まちなか commons のそばを横切るだけでも多くの人々とすれ違うこととなる。集合住宅の住民にとって顔見知りの人は増え、コミュニケーションをとる「心理的ハードル」が下がる。



共助に対する「心理ハードル」が下がる。

まちなか commons に地域周辺の人々が集まる分、集合住宅の住民のプライバシーを確保する必要がある。そこで、三つの棟を重ね合わせることで視点のずれを作る、また、まちなか commons と集合住宅の間に木を挟むことで、洋室内が見えないようにした。

- ・図書館
- ・入口

- ・交流スペース
- ・コワーキングスペース

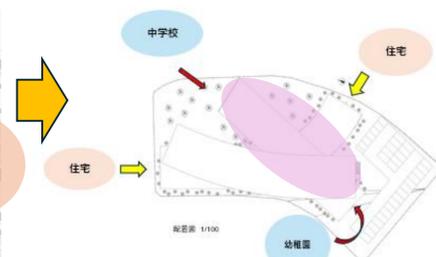
静

動

まちなか commons



googleマップより引用



三つの棟を構成し、そのうち二つは住宅であり、中央の棟は交流の場となる「まちなか commons」を設けた。「まちなか commons」には図書館と交流スペースがあり、集合住宅の住民だけでなく、地域の人々も入り、交流をすることが目的である。

国立大学法人 筑波技術大学  
学籍番号 221129 萬田航大



まちなか commons だけでなく集合住宅内や庭にも交流スペースがあり、ささやかな交流が可能。



入口から見ると暗く見える。先端部分からは明るく見える。

